

# 千代田まちづくりサポート事業 卒業グループアンケート調査結果

2008年11月15日

財団法人まちみらい千代田  
千代田まちづくりサポーターズクラブ

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

千代田まちづくりサポート事業10周年に当たり、かつて当事業が助成した活動グループの方々の現状や当事業に対する意向を把握することにより、今後の当事業のあり方を検討し、その意義と効果を向上させるための参考資料とすることを目的とした。

## 2. 調査項目

- (1) 活動の継続について
- (2) 千代田まちづくりサポートの経験について
- (3) 千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)について
- (4) 千代田まちづくりサポート全般について

## 3. 調査対象等

- (1) 調査対象 かつて当事業の助成を受けたグループ
- (2) 対象件数 63グループ
- (3) 調査方法 アンケート調査票の郵送配付・郵送回収
- (4) 調査期間 平成20年4月23日～5月7日

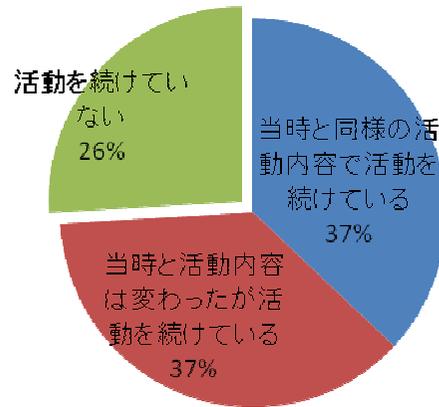
## 4. 回収結果

- (1) 郵送件数 63
- (2) 有効回答 27
- (3) 有効回答率 43.0%

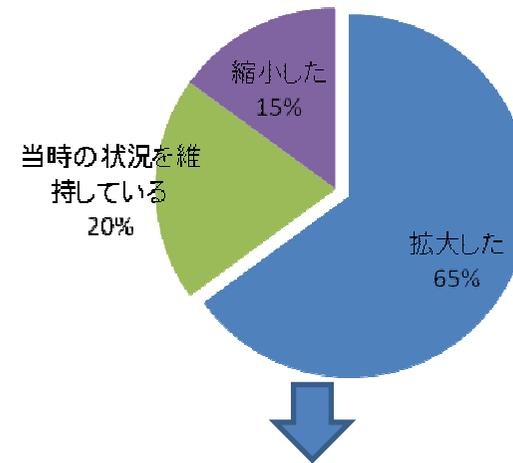
## II 調査結果の要約

### 1. 活動の継続について(1)

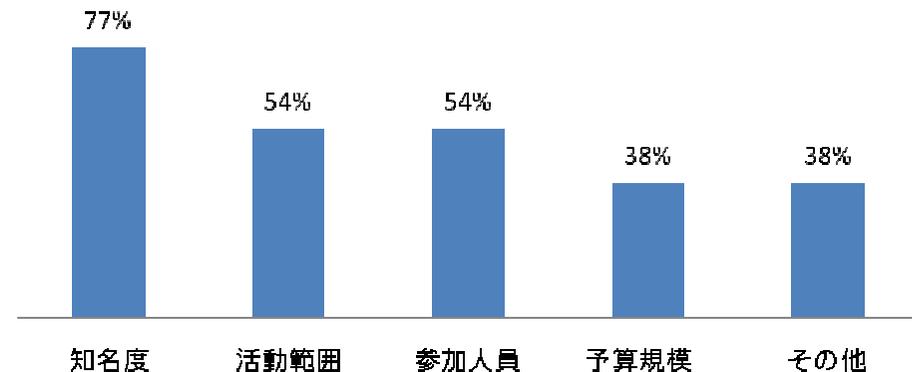
Q. 貴グループは、現在も活動をつづけていますか？



Q. 貴グループの活動はサポート事業の助成終了後どのような傾向にありますか？

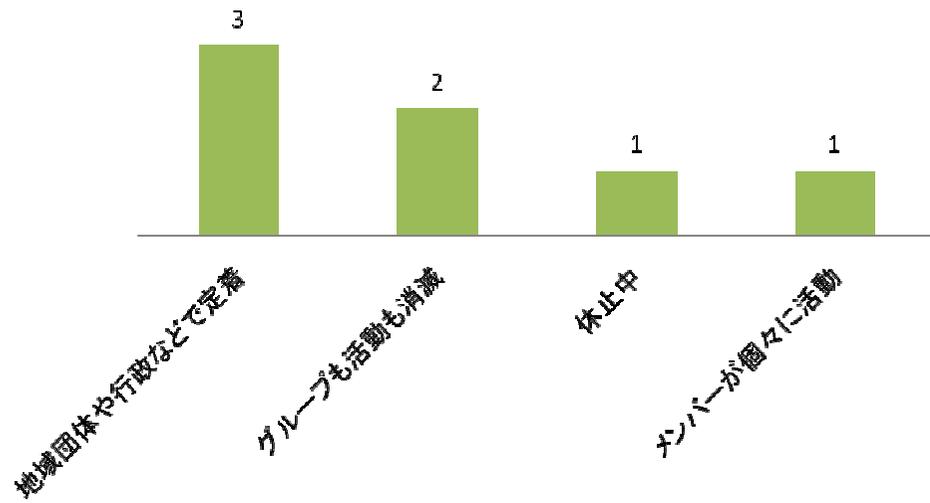


拡大したのは？



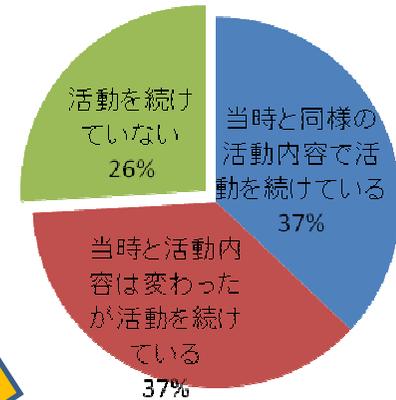
- 有効回答27件のうち、現在も活動を続けているグループが20件・74%に上っている。
- 活動を続けているグループのうちの半数は、助成を受けていた時と活動内容を異にしている。名称を変更したグループも2グループある。
- 活動を続けているグループのうち13件・65%は、サポートを受けていた時よりも活動が拡大している。
- 具体的に拡大した点は、知名度77%、活動範囲・参加人員54%などで、予算規模が拡大したとする回答は38%と余り高くない。

# 1. 活動の継続について(2)

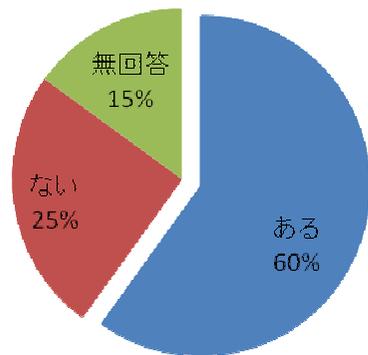


●活動を続けていないとする回答7件は、グループの活動は中止したが地域の団体等で定着しているものが3件、休止中とメンバーが個々に地域で活動するものが各1件で、グループも活動も消滅したものは2件であった。

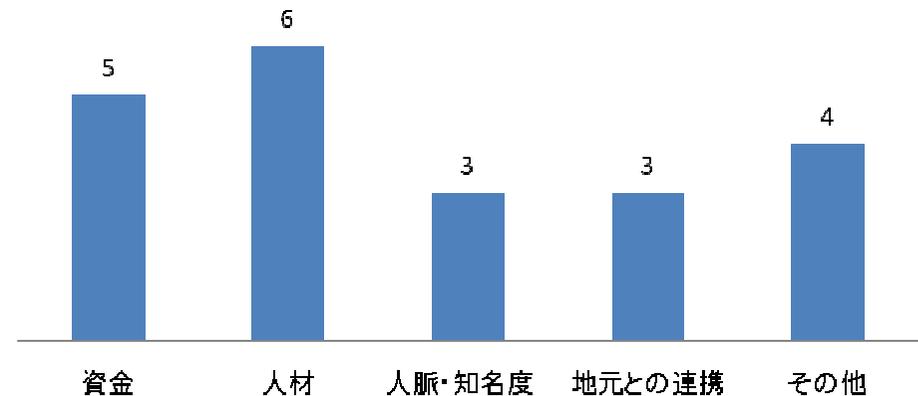
Q. 貴グループは、現在も活動をつづけていますか？



Q. 活動していく上で、不足しているものがありますか？

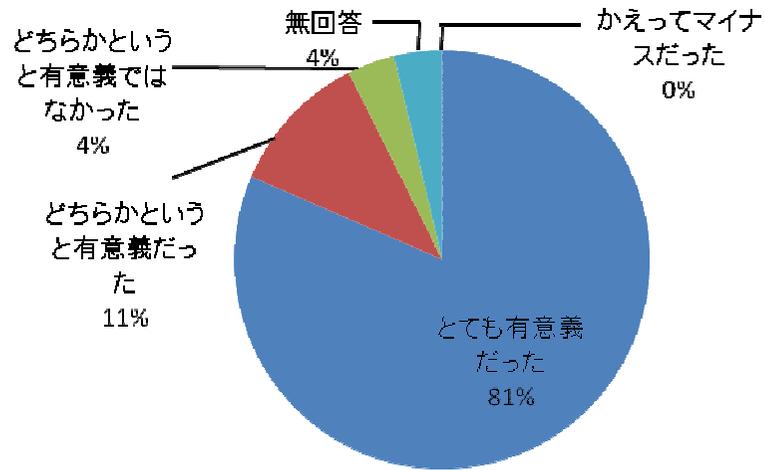


Q. 不足しているものとは？



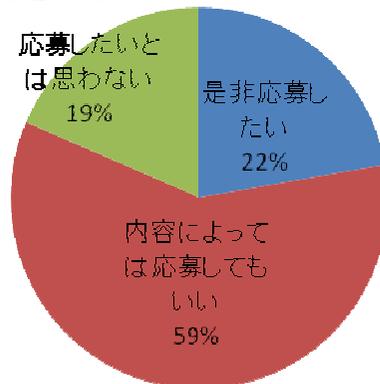
## 2. まちづくりサポートの経験について

Q. まちづくりサポートの助成を受けたこと、また、それによって得られた経験は、有意義でしたか？



●とても有意義、どちらかというと有意義とする回答を合わせると、92%に達する。

Q. 今後、応募可能な助成システムがあった場合に、応募されますか？



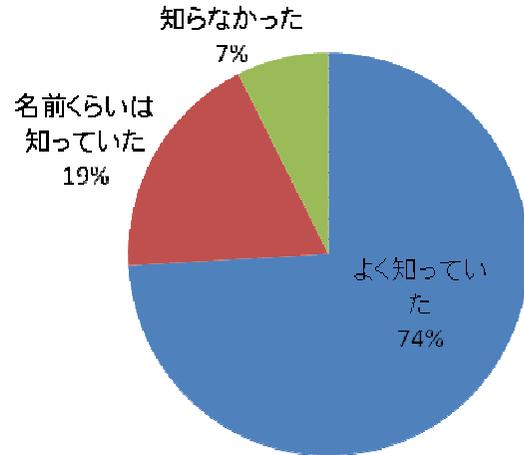
●ぜひ応募したい、内容によっては応募したいとする回答を合わせると81%に上る。

### ●有意義だった点

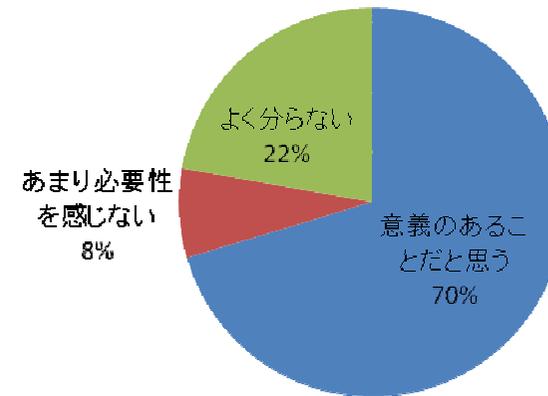
- ・金銭の支援
- ・助成金の額が活動評価と認識、励みになる。  
まちづくりの関心は情報に接するたびに呼びさまされる。
- ・活動が地域に広がった、地元密着調査。地域の信頼性を得た。
- ・他Gとの交流。審査員、参加者などからの評価やアドバイスを受けた。
- ・学術雑誌掲載で信頼を得た。現在の活動理念の基礎ができた。
- ・社会から認知された活動として、対外的に説明ができた。
- ・審査会での意見等で活動内容の修正ができた。
- ・生まれ育った「神田」の再認識ができ、他グループとの交流ができた。
- ・活動の原動力となった。
- ・資金面での援助、活動へのアドバイス。
- ・街の活性化には資金が必要。  
まちサポ助成金は大変助かる。自己負担ではやる気も出ない。
- ・目標をもった活動ができたこと。  
報告書を作ったことで、広くPR出来た。問い合わせがくることがある。
- ・提案、公開審査を取り入れ、税金ではなく企業等の浄財を助成原資としてる点は、未だに輝きを失ってはいない。
- ・地域との交流を持てたこと。
- ・マンションと地域の在り方を考えるきっかけになった。  
協議会等への参加経験など、社会参加への良い経験となった。
- ・顕彰碑を建立。研究成果をCD化できた。
- ・活動を通し、区内小学校から「講習会」を依頼されるようになったこと。
- ・活動の方向が間違っていないことを確認できたこと。  
他Gとの連携のなかで新たなノウハウを創れたこと。
- ・資金面で活動内容を充実できた。
- ・助成のおかげで完成度の高いものができた。また信用を得られた。
- ・地域のためになる活動として厳しく評価されたこと。  
コンセンサスを得るための表現方法を学べたこと。
- ・公に認識してもらえたこと。
- ・学校の枠を超えて、多くの人と関わりを持てたこと。  
また、多くの人に企画を評価されたこと。
- ・様々なまちづくり活動を行っている人と知り合い、仲間になれたこと。

### 3. 千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)について

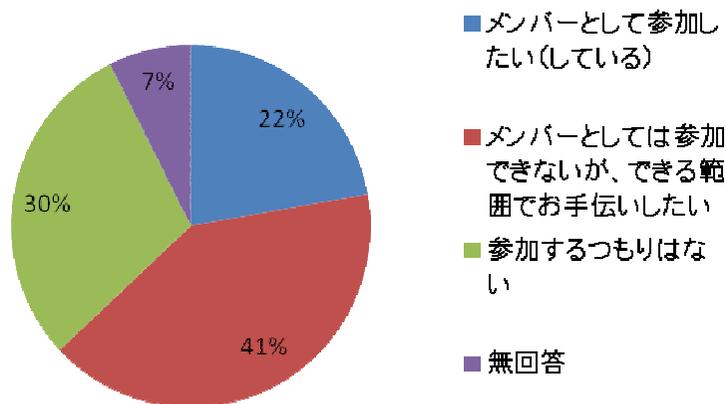
Q. 千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)をごぞんじでしたか？



Q. 千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)の活動を どう思われますか？



Q. 千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)の活動に参加したいと思われますか？



- 千代田まちづくりサポーターズクラブについては、知らなかったは7%にとどまり、広く認知されている。
- その活動については、70%が意義のあることと評価している。
- CSCにメンバーとして参加したいは22%だが、できる範囲でお手伝いしたいは41%にのぼっている。

## 4. 千代田まちづくりサポート全般について

- 10周年記念事業に関する要望としては、10年を総括する事業、まちづくりとは何かを根本的に考える催しなど様々な意見が寄せられたが、助成グループのその後の活動状況がわかるイベント、これまでの助成グループの博覧会、助成団体の現在の活動発表、助成終了後の活動紹介など助成グループのその後を知りたいとする要望が数多くあげられた。
- 今後のまちづくりサポートによる支援については、資金的な支援の継続をはじめ、企業・行政や賛助会員と連携した支援などを行ってほしいとの意見が寄せられた。また、地道な活動に対する長期的サポートやグループ同士の横の連携・相互協力の仕組みなどを望む意見もあった。  
さらに、まちづくりサポート自体の認知度・知名度の向上が必要であるとの声も寄せられた。
- まちづくりサポート全体に対するその他の意見では、まちづくりサポートの対象とすべき活動についての意見や、審査に対する意見（審査基準、審査委員など）、活動の評価方法に対する意見（審査会のプレゼンだけではなく実際の活動に対する評価を）などがあった。

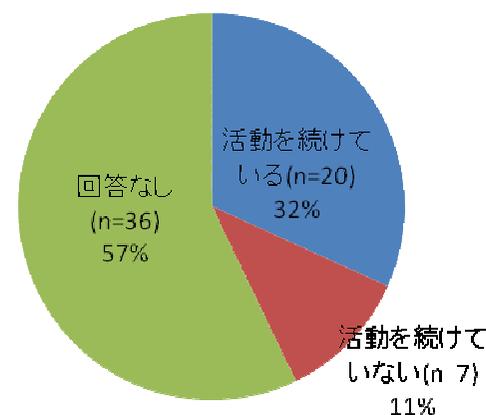
# Ⅲ 調査結果の分析

## 1. 活動の継続について

◆回答がなかったグループがすべて活動を続けていないと仮定しても、少なくとも助成を受けたグループの3割(20/63)は、活動を続けていると推定できる。

◆活動を継続しているグループには、同じ活動を続けているグループと活動が変わったグループとがあるが、同じ活動を続けているグループの方が活動が拡大傾向にある。

●アンケート発送数に占める活動を続けているグループの割合

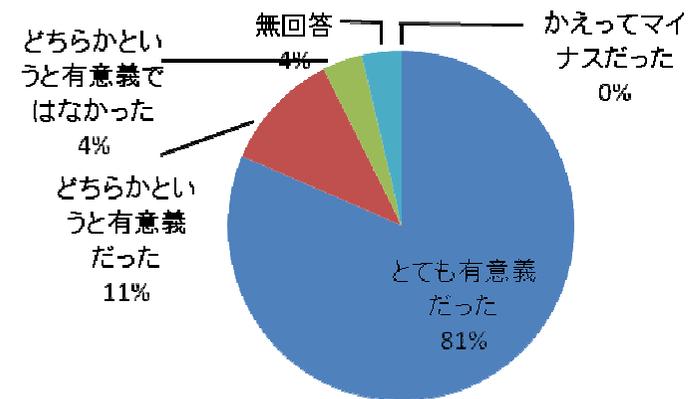


●活動内容の相違による活動の傾向

	拡大(%)	維持(%)	縮小(%)
同様の活動を継続している	80	10	10
活動内容は変わった	50	30	20

## 2. まちづくりサポートの経験について

◆何をもって有意義とするかは様々であるが、有意義であるとする回答が92%に達し、また、マイナスとする回答がないことから、助成を受けた側からは、まちづくりサポート事業を実施する意義付けがなされていると言える。



◆とても有意義であるとする回答のうち86%(27%+59%)が、応募可能な助成システムがあった場合には、是非応募したい又は内容によっては応募したいとしていることから、助成を受けた側からは、まちづくりサポートのような事業を必要としていることがうかがえる。

### ●まちづくりサポートの評価と応募意向

	是非応募したい(%)	内容によっては応募したい(%)	応募したいとは思わない(%)
とても有意義だった	27	59	14
どちらかというとう有意義だった	0	33	66
どちらかというとう有意義とはいえない	0	100	0

### 3. 千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)について

- ◆千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)については、7割がよく知っていたと回答し、意義のある活動であると考えていることから、助成団体には認知されていると考えられる。活動に参加したい、お手伝いしたいとする回答が、合わせて6割あることから、今後の働きかけが大事と考えられる。

### 4. 千代田まちづくりサポート全般について

- ◆10周年記念事業については、助成グループのその後を知りたいという要望が多く寄せられたことから、要望を満たす事業を実施していく。
- ◆今後のまちづくりサポートの支援については、様々な考えが寄せられたが、企業等との連携について、助成を終了したグループの支援の観点から、10周年記念事業を契機に追及したい。
- ◆その他の意見として寄せられた審査に関連する意見を踏まえ、今後審査基準の一層の透明化等を検討したい。

以上